

メディア技法と表現リテラシー

授業科目名	メディア技法と表現リテラシー	単位数	2 単位
英語標記	Media-related Techniques and the Ability to Communicate		
授業コード	第 1 学期 隔週火曜：360115	第 2 学期 隔週火曜：360214	
	隔週木曜：360118	隔週木曜：360216	
受講人数	40 人		
担当教員	平田オリザ、本間直樹、伊藤京子、久保田 徹、小林傳司、桃木至朗		
対象	全研究科大学院学生、社会人（5 名まで）		
開講時間等	第 1 学期＝豊中:隔週火曜 6-7 限（4 月 13 日～）、吹田:隔週木曜 6-7 限（4 月 15 日～） 第 2 学期＝豊中:隔週火曜 6-7 限（10 月 5 日～）、吹田:隔週木曜 6-7 限（10 月 7 日～）		
開講場所	豊中キャンパス：オレンジショップ（基礎工学部 I 棟 1 階） 吹田キャンパス：人間科学部 207 講義室		
キーワード	プレゼンテーション、デザイン、身体表現、映像、空間/環境		
授業の目的	1. プレゼンテーションなどで求められる表現に関する基礎的な知識を身につけ、日頃の研究活動の成果発表の手助けとする。 2. 紙媒体から映像まで、幅広い範囲の「デザイン」の考え方を学び、その根底にある思想を吸収する。 3. 実際に身体を動かしながら、表現とは何かという根本問題を考察する。		
講義内容	ープレゼンテーション技術から知的表現までー この講座では、実際にデザインなどを体験するワークショップ形式の授業を織り交ぜながら、デザインや表現、科学技術コミュニケーションの本質についての理解を深めていきたいと考えています。「基礎の基礎」といった内容ですから、これまで、デザインや表現が苦手だと考えていた理系の学生などに、強く履修を勧めます。 1. オリエンテーション・授業内容紹介 2. コンピュータテキストで何を伝えるか？ 3. 身体（からだ）と出会いなおす 4. 歴史を通じて考える 5. 映像メディアをつかって考える 6. 演劇ワークショップ 7. 科学技術とコミュニケーション 8. まとめ ※前後期、豊中・吹田教室とも、同内容の授業を行います。		
教科書	特になし。適宜資料を配布する。		
参考書	特になし		
成績評価	1. 授業内容に関するレポート 1 回（30％） 1200 字程度 授業で学んだことを、できるかぎり自分の専門領域に引きつけて書いてください。 ※レポートは A4 版でワープロ打ちのこと。期日は授業内で発表します。 2. 出席（40％） 3. 授業への参加（30％） 各回ごとに評価。積極的な発言、質問、提案などを評価します。		
履修条件・受講条件	副プログラムの必修科目となっているため、受講生が多い場合は、学年が上の学生から履修を認めます。毎年、1 学期が履修希望者が多く、2 学期が少ないので、2 学期での履修を勧めます。演習を多く含む授業なので、受講者が少ない方が充実した授業となります。		
その他	日程が変則になりますので、初回の授業できちんと確認してください。		

この講座は、

この講座は、日頃、「自己表現が苦手な」「デザインって難しいな」と思っている理系の学生たちを主要なターゲットとして、表現することの楽しさを実感してもらうために開講されます。この講座を受けただけでは、プレゼンテーション能力が急に向上するとか、瞬く間に雄弁になったりということはありません。そんなものがあつたら、それは眉につばをつけて接した方がいいでしょう。そういった目先のスキルよりも、表現とは何か、デザインとは何か、これからの研究者にとって要求されるコミュニケーション能力とは何かといった根源的な考え方に触れてもらうことが、まず第一の目的です。

芸術家やデザイナーは、一体どんな発想、どんな行程で物事を考え、作品や製品に結びつけていくのか、実際の作業の工程に触れながら理解してもらいます。

副プログラムの履修を希望する学生にとっては、基礎科目となります。

各授業内容は、以下の通り（ただし、日程は変更の可能性あり）。

初回はオリエンテーションです。(4/13, 4/15, 10/5, 10/7)

コンピュータテキストで何を伝えるか？(4/27, 5/6, 10/19, 10/21) サイバーメディアセンターで開講

文字（テキスト）を介した複数人のコミュニケーション方法のあり方を考えるために、電子メールや電子掲示板などの形式に近い、コンピュータを用いたテキスト型コミュニケーション演習を行う。そして、コンピュータを用いたテキスト型コミュニケーションの利用方法、制約、可能性、限界を検討する。

身体（からだ）と出会いなおす(5/18, 5/20, 11/2, 11/11)

身体のワークショップ、及びグループディスカッションを通して、日ごろ注意を向けずにいる（私の身体）の感覚や動き（表現）を捉えなおし、他者と世界との交流を媒介する身体のはたらきとその可能性について考える。

歴史を通じて考える(6/1, 6/3, 11/16, 11/18)

著名な歴史上の事件や事象をとりあげて、その原因や結果、現代への影響についてグループディスカッションをおこない、歴史を通じてどんな理解・思考・コミュニケーションが可能になるかを考える。

映像メディアをつかって考える(6/15, 6/17, 11/30, 12/2)

パソコンやビデオカメラの編集機能をいっさい使わずに、簡単な映像（1 分間の作品）制作をグループで体験する。

制作過程と鑑賞後の議論を通して、映像メディアに関する私たちの先入観を問い直し、「表現」と「技術」そして「メディア」の枠組みを自由な発想から捉えることを学ぶ。

演劇ワークショップ(6/29, 7/1, 12/14, 12/16)

簡単なコミュニケーションゲームから、テキストを使った実演までを行い、演劇が持つ表現の可能性に触れてもらう。特に集団でのコミュニケーションを考える際に重要となる「コンテキストのずれ」「コンテキストのすり合わせ」の概念を学ぶ。

科学技術とコミュニケーション(7/13, 7/15, 1/11, 1/6)

現代社会において科学者、研究者に求められるコミュニケーション能力とは何か、科学と社会をつなぐ営みの実例を紹介しながら、その基礎的な考え方を学ぶ。今後の C S C D での学習のイントロダクションの役割を果たす。

最終回は、総まとめの授業をする予定です。(7/27, 7/29, 1/25, 1/20)